～未来へ向かって～

South Dream3『夢に向かって～みんなで笑って一年をはじめよう!』

日時：　令和８年１月 20 日（火）５・６校時
場所：　袋井南中学校体育館
日程：　13：15～　生徒移動/講師入場　　★企画・運営担当：South Dream 委員会
13：25～　生徒企画①　講師紹介プレゼン
「落語とは？プレゼン」
13：35～　演目・講話　　＊14：10～　休憩
14：20～　生徒企画②　質問コーナー
14：45～　生活に生かせる落語スキル
15：00～　生徒代表お礼の言葉（牧野生徒会長）
15：02～　講師退場/生徒移動　※ワークシート振り返り記入

講師：　三遊亭鳳笑　様（五代目円楽一門会所属）
□ 1977 年生まれ　本名 伊藤 哲 袋井南中出身
□ 2006 年五代目円楽一門会　三遊亭鳳楽に入門
□ 2020 年真打昇進
『鳳笑』～オオトリで笑わせるという意味が込められている
テーマソング出囃子～三味線　童謡『雨ふり』

【鳳笑さんへ質問タイム】
Q：『落語』の道へ進もうと思った時に不安なことや心配なことはありませんでしたか？
A：弟子入りし、３年間、前座として礼儀作法を身に付けることは大変でした。師匠がどんなことを考えているのか？人に言われなくても、その人のニーズを先読みして動く気遣いをすることが大切です。
Q：いつもどのような気持ちで仕事をしたり、人前に立ってたりしていますか？
A：いろいろな場所に行くので、経験が必要です。自分自身がおもしろいと思い込んでやること、明るい声でタイミング良く、相手のことを好き、という気持ちを心掛けています。第一声が大切です。
Q：鳳笑さんは、夢を叶えるためには何が一番必要だと思いますか？
A：稽古のための稽古をしていてはいけません。常に本番のイメージを持って稽古、シミュレーションをします。言われた通りにやるのではなく、自分なりにアレンジを加えることで自分のものになっていきます。自分の好きなことを珠々つなぎしていくことで自分の感性にはまる「本当の好きなこと・得意なこと」に出会うことができると思います。焦らず、得意を財産に道を切り拓いていってください。

【即興謎解きに挑戦！】
『カブトムシ』とかけて『口をきいてくれない人』ととく！その心は→両方とも「むし（虫・無視）」でしょう

＜１年生＞

自分の好きなことを極めると、最終的に仕事に繋がるということがよく分かりました。自分の好きなことを見つけて、自分が好きだと思えることを見つけることで、新しい世界が見えてくるのだなと思いました。落語家としてどうしたらみんなが笑ってくれるかなといつも考えていることなど、好きなことについて語っている方はすごく生き生きとしていてキラキラしているなと見ていて思いました。自分も好きだなと思うことを仕事にしてたくさんの人に発信したいなと今回の講話を聞いて感じました。落語とあまり関わりがなくてどういうのかなと思っていたけど、自然と笑顔になれるようなものだなと思いました。

私は今日の話を聞いて、好きなことを続けることって、あらためていいなと思いました。鳳笑さんは好きなことをたくさん見付けて見極めることが大切だと言っていました。また、好きなものは人と自分は違うので、自分の良さを見付けて、それを活かせたらいいなと思いました。特に印象に残ったのは、「有名な本を読んで世界の基準を知る」ということです。興味のあることに少しでも触れてみることで、自分が本当に好きなものが分かるという話を聞いて、自分自身もやってみようかなと思いました。

『落語』とは？
ー落語とは、日本の大衆芸能の１つ。おもしろい話で聴衆を笑わせ、終わりに「落ち」（サゲ）をつける話芸

＜２年生＞

South Dream で講師の三遊亭鳳笑さんのお話を聞きました！落語にも「廻り落ち」や「途端落ち」などの種類があり、それぞれに面白さや魅力がありました。『転失気』の落語では、知ったかぶりをしていたせいで後々に恥をかき、おなら（臭い）をかけて「くさい話」と締めたところが見事でした。なぞかけでは「人生」とかけまして「鎌倉時代の随筆家」ととります。その心は・・・「健康」が一番！最高でした。機転が利いた噺を即興で展開させる技術、本当に驚きました。

South Dream、すごくためになるお話でした！特に好かれたいと思ったら、まずは自分が相手を好きになること、というお話がすごく印象に残りました。確かに自分が誰かを好きであったら、その人を『好きであるオーラ』を相手に向かって届けようとするはずです。そうすれば、きっと相手もそれに気付き、分かってくれますよね？自分が好きな人に自分の思いを伝えたいと強く思いました。落語は初めてライブで見ましたが、１人で何役もこなされるのはすごかったし、面白かったです。また見てみたいです！

三遊亭鳳笑さんのお話は、面白く、かつためになるお話でした。落語は想像していていた以上に面白かったです。特に、「自分の好きなものを職業だけに当てはめる必要はない」という言葉が心に残りました。私も夢がないですが、自分の好きなことを明確にして、今後の人生に役立てていきたいです。

＜３年生＞

鳳笑さんの講話はとてもタメになることばかりでした。特に、夢に向かって努力する時に、シミュレーションをするということが印象に残り、これからの生活に生かしたいと感じました。
若い頃の多くの苦労話、お茶出しをすることや師匠の身の回りの世話をすることなどは胸が締め付けられました。長年の苦労を乗り越えた鳳笑さんだからこそ、見ることができた夢なのだと思います。『てんしき』の落語はとてもおもしろく、聞いている私は自然と笑顔になりました。本物を聴くことを通して、話芸の奥の深さを感じることができたと思います。
私も今、掲げている夢に向かって１歩ずつ進んでいきたいと強く思いました。ありがとうございました。

鳳笑さんのら雨後講座やお話の中で、「相手を少しでもいいから好きになることで、相手からも好きになってもらえる」という言葉がありました。厳しい落語界の上下関係の中を必死に生き抜いてきた鳳笑さんが得た生き方は私のこれからの人間関係を構築していくことに生かすことができる点が多いと思いました。また、自分の心持ちを変えることで、心身に掛かる負担を減らすことができることも教えていただきました。自分の気持ちを自分で変えてやるんだ、というように心を前向きにできたらいいなと思いました。

将来の夢を実現させるためにはどうすればいいのか？今、高校について悩んでいるからこそ考える機会を得て良かったです。この人になりたい！と思って同じ事をしても自分と得意なことが違ったり、持っている物が違えば、絶対に同じことはできません。自分と似ている人を見付けて上達する方法を探した方が早道であることにも気が付きつきました。鳳笑さんの経験から得た、言われる言葉だけでなく、その人が求めていることを想像し、実践する！これからの私たちに必要だと思いました。

人を笑わせる、他の仕事とはひと味違う落語家という職業について教えていただくことができました。テレビや漫画の中でしか見たことがない日本の伝統落語、それもなることがとても難しいとされる真打ちの落語を聴くことは貴重な機会となりました。豊かな表情、扇子の使い方に引き込まれました。
日常の何気ない会話を巧みな言葉遊びで披露する技術の高さ、噺家がねらいとしている「落ち」が聴き手の心に届くように工夫する声の抑揚、さすが！と思いました。落語家になろうと思いたって多くの壁を失敗を恐れず乗り越えた鳳笑さんの見事な行動力は見習いたいです。　　＊生徒会長　牧野さん＊